

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	歴史Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0031		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	『新編世界の歴史』北村正義（学術図書出版）・『最新世界史図説タペストリー』帝国書院編集部（帝国書院）・プリント					
担当教員	藤野 月子,富田 暁					
到達目標						
1. 第一次世界大戦以降の歴史的な意義が理解・説明出来る。 2. 第二次世界大戦以降の歴史的な意義が理解・説明出来る。 3. この時期の日本の在り方が理解・説明出来る。 4. 現代に繋がる歴史的過程が理解・説明出来る。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	第一次世界大戦以降の歴史的な意義が深く理解・説明出来る。		第一次世界大戦以降の歴史的な意義が理解・説明出来る。		第一次世界大戦以降の歴史的な意義が理解・説明出来ない。	
評価項目2	第二次世界大戦以降の歴史的な意義が深く理解・説明出来る。		第二次世界大戦以降の歴史的な意義が理解・説明出来る。		第二次世界大戦以降の歴史的な意義が理解・説明出来ない。	
評価項目3	この時期の日本の在り方が深く理解・説明出来る。		この時期の日本の在り方が理解・説明出来る。		この時期の日本の在り方が理解・説明出来ない。	
評価項目4	現代に繋がる歴史的過程が深く理解・説明出来る。		現代に繋がる歴史的過程が理解・説明出来る。		現代に繋がる歴史的過程が理解・説明出来ない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	人類の歴史、特に現代社会に直接繋がっている近現代史を学ぶ ことを通し、 世界を舞台に活躍する国際人となるために、そして我々が直面する社会の諸問題の解決に取り組むことができるために、重要かつ必要となる知識・視野・思考法を身に付けることを目指すと共に、社会の発展過程を論理的に追究する能力を養うことを目指す。					
授業の進め方・方法	・すべて の内容は学習・教育到達目標に対応する。 ・授業は講義形式で 行う。グループによる自己学習の時間も授業進度や状況に応じて設ける。対面でなく遠隔（オンライン）での授業になった場合は、受講環境に応じた適切な授業方法を用いる。 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で 習得する「知識・能力」に相当するものとする。					
注意点	<到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」を確認する問題を2回の定期考査で確認し、最低60%の得点を達成基準とする。 <学業成績の評価方法及び 評価基準>2回の定期考査の結果および課題の提出ならびに授業への取り組みを総合的に判断する。成績不振者については再試または課題を課す。成績不審者が再試または課題提出をおこなった結果が60点以上になった場合は、その成績を60点として置き換える。 <単位修得要件>学業成績で 60点以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎的事項>小・中学校で 学習した地理的分野の知識。また、今日の世界で起こっている歴史的な出来事に普段から関心を寄せておくこと。映像資料や新聞やテレビなどで報道されるニュースなども教材として随時利用する。 <レポートなど >特になし。 <備考>教科書、地図帳、プ リント、画像・映像資料を用いて授業をおこなうが、『最新世界史図説タペ ストリー』は授業に必ず 携帯すること。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	第一次世界大戦	1. 第一次世界大戦の背景や影響が理解できる。		
		2週	第一次世界大戦とアジア	2. 第一次世界大戦時のアジアの様子が理解できる。		
		3週	ロシア革命と社会主義	3. ロシア革命を通じて社会主義が理解できる。		
		4週	ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	4. ヴェルサイユ体制下の欧米諸国の様子が理解出来る。		
		5週	ヴェルサイユ体制下のアジア	5. ヴェルサイユ体制下のアジアの様子が理解できる。		
		6週	ファシズムと世界恐慌	6. ファシズム出現の背景と世界恐慌下の世界の様子が理解できる。		
		7週	日本の帝国主義と軍部の台頭	7. 日本における帝国主義と軍部の台頭の様子が理解できる。		
		8週	中間考査	上記1～7のこれまでの学習内容を理解し、説明することができる。		
	2ndQ	9週	第二次世界大戦	8. 第二次世界大戦の背景と経過が理解できる。		
		10週	アジア太平洋戦争	9. アジア太平洋戦争の背景と経過が理解できる。		
		11週	戦後に残された課題	10. 第二次世界大戦やアジア太平洋戦争が戦後世界に与えた影響が理解できる。		
		12週	冷戦下の世界	11. 東西対立と冷戦の内容が理解できる。		
		13週	冷戦下での多極化	12. 冷戦下での世界の多極化の動きが理解できる。		
		14週	冷戦後の世界	13. 冷戦後の世界の動きが理解できる。		
		15週	現代世界と日本	14. 現代の世界と日本の状況や抱える諸問題が理解できる。		
		16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
評価割合						
			試験	課題（レポート・プリント・その他）	合計	
総合評価割合			80	20	100	
配点			80	20	100	